

平成 30 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、明朗かつ協調性豊かで、心身ともに健康な児童生徒を育成する。

2 学校の特徴

本校は県中央部に位置する知的障害を主障害とする児童生徒を対象とする特別支援学校である。小学部から高等部まで 277 名の児童生徒が学んでおり、県内では最も規模が大きい。自閉症（傾向を含む）の児童生徒が半数を超え、さらに、知的障害と他の障害を併せ有する児童生徒も多い。

一人一人の教育的ニーズを的確に把握するためのアセスメントを実施し、個別の指導計画に基づいて個に応じた学習活動を展開するとともに、障害等の特性に応じて学習形態や学習環境を工夫している。また、新学習指導要領に示された枠組で学習内容の見直しや精選を行い、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進め、小学部・中学部・高等部における系統的で一貫した指導の充実を目指している。

3 学校の現状と課題

- ・ 本校には小学部から高等部まで幅広い年齢の児童生徒が在籍しており、障害の状態も、年々、重度化、重複化、多様化してきている。また、コミュニケーションをとるのが苦手の児童生徒も多く、友だち同士のトラブルやけがを伴う事故、ヒヤリハット事例が少なからず起きている。一方、心臓疾患・てんかん・アレルギー等特別な配慮を要する児童生徒も多く、児童生徒の学校生活の中では、様々な事故や危険な状況が起こる可能性がある。児童生徒の健やかな成長を促すためには、児童生徒が安全に安心して学校生活を送ることを保障するための指導や体制づくり、安全に生活できるための環境整備が必要であり、さらに、児童生徒の安心安全を守るための教員の意識、専門性の向上を図ることが必要であると考え。
- ・ 本校では、児童生徒会執行部を中心として、年 2 回の挨拶運動を実施している。朝、登校時にバスや車から降りてくる際、自分から「おはようございます。」と元気に挨拶することができる児童生徒は増えている。しかし、登校時以外の場面では、挨拶されれば返すことができる児童生徒はいるものの、なかなか広く定着していかないのが現状である。一日の生活の中にもいろいろな挨拶をする場面があり、時と場に応じた挨拶の言葉があることを知り、適切に言えるようになったり、社会生活を送る上で挨拶することの必要性を理解したりすることにより、より社会性と人との適切なコミュニケーション能力を身に付けていく必要があると考え。
- ・ 本校の P T A 活動は、「洗心会」として、4 つの部会に分かれて様々な活動を行っている。親子のふれあいを深める目的で行っている余暇活動などには比較的多くの参加者がみられるものの、校外での研修会への参加者は少ない。今年度、本校は、富山県特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合会、及び北陸地区特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合会の事務局となっている。この機会に少しでも多くの研修会に参加して、保護者同士のつながりを広げ、今後の P T A 活動や各家庭での教育に役立てることができればと考えている。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	・作成しやすく活用しやすい個別の教育支援計画作成のために、作成手順等を見直す。
		計画 教務	・「個別の指導計画様式検討のための教務部小委員会」を立ち上げ、他校等から情報収集し、検討する。 ・他機関との連携や個別の指導計画との関連が分かりやすく、より活用につながるように本校の様式や作業手順等を見直す。
		目標	・新学習指導要領の実施に向け、本校が培ってきた取組を振り返り、各教科においてこれからの時代必要な児童生徒の資質・能力を明確にし「何を学ぶか」という学習内容の見直しや精選を行う。
		計画 研修	・新学習指導要領の理念について研修を行う。 ・各教科において、学習内容の見直しや精選を行う。
2	学校生活 重点 1	目標	・通学バスや路線バスの乗車マナーの定着を図る。
		計画 生指	・マナーアップ集会やマナーアップデイ、マナーアップ評価週間を設定し、乗車マナーについて具体的な指導を行う。 ・取組を学校便りやホームページ等に掲載し、保護者の理解と協力を得る。
		目標	・児童生徒の防災への意識を高める。
		計画 生指	・避難訓練や備蓄食飲食体験、防災教室等の機会を通して、児童生徒に繰り返し防災の大切さを指導する。 ・地震、火災の避難訓練時には、様々な状況を設定するとともに、実際に防災具を身に付けた訓練を実施する。
		目標	・指導や体制を充実させて安全安心な学校生活を保障し、児童生徒の健やかな成長を促す。
		計画 生指	・外部専門家による安全安心や適切な指導に関する研修会を実施する。 ・ヒヤリハット事例などの蓄積と対策検討会を実施する。 ・対策検討会や研修会で示された改善策で使用するツールをデジタル教材化・共有化する。
		目標	・検診・受診に関する指導の充実を図る。
		計画 保健	・学校医と連携を取り、検診・受診の内容や検査方法について児童生徒や保護者に情報を提供する。 ・委員会活動等を通して、検診・受診の内容やマナーを分かりやすく紹介する。
目標	・食に関する指導の充実を図る。		
計画 保健	・栄養バランスの大切さが分かるように食に関する教材・資料の整備を行い、より良い食習慣が身に付くように指導を行う。 ・委員会活動等を通して、食事マナーアップの啓発活動を行う。		
3	進路支援	目標	・保護者、教員に対しての進路研修会を実施するなど、情報提供を充実させ、小から高まで保護者と教員がより連携して一人一人の就労に向けた進路支援体制の構築を目指す。
		計画	・新しい福祉制度や進路先等の情報、将来の就労生活に必要な力など進路に関する情報提供の場として、小学部から高等部までの保護者や教員を対象とした研修会等を実施する。 ・担当が保護者に対してよりよい進路相談が行えるように、進路担当が担当に対して適切な助言や支援を行う。
4	特別活動 重点 2	目標	・いろいろな場面で挨拶ができる児童生徒の育成を図る。
		計画 特活	・児童生徒が、学校生活において1日を通して進んで挨拶するように、児童生徒会執行部員が中心となって「あいさつ運動」や「あいさつ集会」などを実施する。 ・学級を中心に、一人一人の実態に応じた挨拶に関する指導を行う。 ・挨拶の定着を図るために、家庭とも連携して取り組むことができるように、積極的に働き掛ける。

	特別活動	目標	・地域交流活動の内容の充実を図る。
		計画 学部 特活	・地域に本校の教育について情報を発信し、理解と啓発を図る。 ・交流先（校）の理解と共同意識を推進するように活動内容の充実を図る。
5	その他	目標	・6月に本県で開催される北知P連合会と9月に開催される県知P連合会（いずれも本校が事務局）に向けてPTA役員の結束を図り、円滑に研修会が行われるようにする。 ・PTAの事業について情報提供を積極的に行い、会員間で共有できるようにする。
		計画 総務	・北知P、県知Pの事務局校としての開催に向けて必要な情報を提供し執行部員を中心に準備を進められるようにする。 ・PTAの事業について校内掲示板やプリントで予告するとともに、PTA会誌で事業の内容等の情報を提供し、必要な情報を会員間で共有できるようにする。
		目標	・児童生徒の読書環境を整えるとともに読書活動の推進を図る。
		計画 情図	・児童生徒が利用しやすい図書室となるよう、書架や書籍の配置等環境を整える。 ・読書推進活動について、現在の活動を見直したり、新たな活動を考えたりし、図書委員会と連携して取り組む。
		目標	・教員のICT活用能力の向上を図る。 ・個人情報管理の徹底と情報処理技術等の共有を図る。
		計画 情図	・タブレット型端末の利用の仕方及び有効な利用方法等を共有化する。 ・個人情報管理上のルールをより分かりやすく提示し、定期的に呼び掛ける。 ・個人情報管理リスト作成の意義や方法について全職員に共通理解を図る。 ・情報処理技術のマニュアルを新しい機器用に変更したり、有効と思われるマニュアルを追加したりするなど利用しやすいように整理する。
		目標	・寄宿舎の規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣を身に付けるよう一人一人に応じた具体的な支援を行う。
		計画 舎	・一人一人の発達段階や障害の程度に応じた生活目標を設定し、支援の在り方について指導員間で共通理解を図る。 ・学部、担任、家庭と連携を図り、一過性とならない効果的な生活指導に努める。
		目標	・児童生徒に対する支援体制を整えて、ニーズに応じた支援の充実を図る。
		計画 教相	・学年会が改善の困難な事例について校内サポート会議の開催を決めた場合、学年主任と会議の進め方等の相談をしたり関係機関等の情報を提供したりして開催を支援する。必要に応じて外部の関係機関と連携し、よりよい支援が行えるようにする。（校内支援） ・地域の学校のニーズに応じた相談が行えるよう体制を整備し、情報提供する。 ・就学・進学相談において相談機能の充実に努め、適切な情報を提供する。（地域支援）

5 今年度の重点課題

平成30年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	安全安心な学校生活の保障	
現 状	<p>本校には、多様な障害のある児童生徒、幅広い年齢の児童生徒が在籍しており、友だち同士のトラブルやけがを伴う事故、ヒヤリハット事例が少なからず起きている。そのため、指導や体制を充実させて安全安心な学校生活を保障し、児童生徒の健やかな成長を促す必要がある。</p> <p>そこで、「明るく 仲良く 元気よく」生活する児童生徒の育成と、そのための見守り体制や環境の整備を行うとともに、この取組を維持向上させるための意識・専門性の向上を図っていきたい。</p>	
達成目標	ヒヤリハット事例の対策検討会と外部専門家による研修会の実施	対策検討会や研修会で示された改善策で使用するツールをデジタル教材化・共有化する。
	対策検討会3回、研修会1回	5個
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、学年ごとにヒヤリハット事例を協議する対策検討会を実施し、反省点や改善策及び未然に防ぐことができた体制等をまとめ、共通理解が必要な内容についてはグループセッションで知らせ、全教職員に周知する。また、緊急性のある内容については、職員朝礼や職員会議等で周知する。 ・年1回、外部専門家による安全安心や適切な指導に関する研修会を実施し、各学部1事例ずつ報告し助言を受ける。 ・ヒヤリハット事例を未然に防ぐため、対策検討会や研修会で示された改善策をデジタル教材化し、全教職員が使えるようにする。 ・取組に関する情報をホームページなどで公表する。 ・保護者や外部委員をメンバーに含めた対策委員会や保護者会等での取組の報告と意見聴取を行う。 	

平成30年度 富山県立しらとり支援学校アクションプラン - 2 -			
重点項目	挨拶の習慣化		
重点課題	いろいろな場面で挨拶ができる児童生徒の育成		
現 状	<p>本校では、児童生徒会執行部を中心に、6月と11月の登校時にあいさつ運動を行っており、朝の挨拶「おはようございます。」は自分からできる児童生徒が多く見られる。しかし、下校時や職員室入室時など、登校時以外の場面では、言葉を掛けられれば挨拶を返すことはできるが、朝の場面ほど定着はしていない。</p> <p>そこで、今年度はあいさつ運動の他に集会を企画し、一日の生活の中で用いる挨拶の言葉や場面を紹介したり、挨拶をすることの良さなどを伝えたりすることで、児童生徒が自分から挨拶をしようという意識を高めたいと考える。また、児童生徒会執行部員が、集会の進行や放送で呼び掛けを行うことで、執行部員の主体性を高め、彼らを中心として全校児童生徒が、いろいろな場面で挨拶できるように活動を進めていきたい。</p>		
達成目標	あいさつ運動 6月、11月	あいさつ集会	掲示物の作成、配布
	2回	1回	1回
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動（6月、11月） 児童生徒会執行部員が中心となり、登校時に各学部の玄関で挨拶を呼び掛ける。また、あいさつ週間のポスターを作成したり、お昼の校内放送で挨拶することを呼び掛けたりする。 ・あいさつ集会（2学期上半期） 一日の生活の中で、必要な挨拶の言葉やその場面、また挨拶することの大切さなどを伝えるために、プレゼンテーションソフトを用いて作製したスライドやビデオ等の視覚的な教材を作成し、集会で紹介する。 ・掲示物の作成、配布（2学期上半期） 集会で伝えた内容をもとに、一日の生活の中で必要な挨拶の言葉をまとめて掲示物を作成し、各学級に配布し、挨拶することの大切さを指導する。 ・あいさつ運動や集会の内容について、児童生徒や教師の感想を校内放送したり掲示したりする。 		

重点項目	その他	
重点課題	PTAの事業やPTA連合会等の研修会への参加者の増加を図る	
現 状	<p>本校の児童生徒は広域から通学しており、多くは通学バスを利用したり、放課後デイサービスを利用したりと、保護者同士で顔を合わせる機会が少ない。つながりが強く情報交換を頻繁に行う保護者のグループが存在する一方で、孤立する保護者がみられる。そこでPTAの活動を通して、保護者同士のつながりを広げていきたいと考えた。</p> <p>本校のPTA活動の現状は、執行部員になると話し合う機会が多くなるため結束がみられるものの、その他の役員や一般会員の事業への参加率は、なかなか上がらない状態である。それは、PTAの活動の情報が、会員全体にしっかり届いていないためではないかと考える。</p> <p>そこで、PTAではどのような活動を行っているのか全会員に知らせるため、昨年度は広報誌の内容を一新した。以前の紙面は事業に参加しての感想等が中心だったが、行った事業や研修会等の内容や出された意見を中心に載せることとし、広報活動に力を注いだ。</p> <p>今年度は本校が富山県特別支援学校知的障害教育校PTA連合会や北陸地区特別支援学校知的障害教育校PTA連合会の事務局となっており、より一層の会員の参加を期待したいと考えている。そのため引き続きPTAの広報誌を活用して、保護者の興味関心を促すように努力するとともに、研修会やPTAの事業への参加者の増加を目指していきたい。そしてそのことが、本校のPTA活動の活性化や広がりにつながると考える。</p>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主要な事業や各PTA連合会（研修会）への参加を促す案内ちらしの発行 <p>各1回以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA広報誌の内容についてのアンケート調査の実施 <p>「①とても良い ②まあまあ良い ③ふつう ④あまり良くない」のうち、①や②と回答する保護者の割合が60%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業や各PTA連合会（研修会）の内容について、講演内容等が保護者に分かりやすく興味をもちやすいように工夫した案内チラシを要項とともに配布する。 ・ 昨年度と今年度の1回目の広報誌の内容について、会員が知りたい情報や関心があるものについてアンケートをとり、次回の広報誌に反映させ、PTA活動への興味がもてるようにする。 	